

**平成 19 年度第 5 回
宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事要旨**

ホームページ掲載用

平成 20 年 2 月 15 日開催

平成 19 年度第 5 回 宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事要旨

開催日時：平成 20 年 2 月 15 日（金）午後 2 時 30 分から 4 時 30 分まで

開催場所：市役所 3 階 3 - 3 会議室

出席委員：22 名中 15 名

委員の過半数以上の出席があり、宝塚市廃棄物減量等推進審議会条例第 6 条第 2 項の規定により会議は成立

事務局：環境部長、クリーンセンター所長、ごみ政策課、管理課、業務課、業務課
委託コンサル業者

傍聴者：なし

審議経過

- 1 事務局より、「宝塚市一般廃棄物処理基本計画・改定版（案）」に対するパブリックコメントへの回答（案）について説明

主な意見及び説明

会長 本日は、パブリックコメントの回答（案）を中心に、「宝塚市一般廃棄物処理基本計画・改定版（案）」について、審議を尽くしたい。それでは、事務局の方からパブリックコメントの回答（案）についての説明をお願いします。

事務局 パブリックコメントの概要及び意見提出者 1 番から 3 番に対する意見内容、回答（案）について説明。

会長 1 番から 3 番までのパブリックコメントに対する修正等の検討をするが、一般廃棄物処理基本計画の改定版（案）について、ここはどのように修正した方が良いという具体的な提案をお願いしたい。パブリックコメントにより気づかなかった所があれば、このように修正したいという提案がほしい。改定案に合意があれば改定案を更に改定して最終案とする方向でまとめて行きたい。1 番から 3 番までで改定案の修正があればお願いしたい。

委員 1 - 3 で、意見と回答がマッチングしていない感じがする。1 - 3 では行政が再

資源化に積極的な企業を目に見える形で評価して応援してほしいといっているのではないか。これに対して回答が回避している感じがする。再資源化に積極的な企業を目に見える評価をしてゆくことによってよりごみ処理、リサイクルの色々な推進に役立つという意見には納得するが、回答がもうひとつとを感じる。それと、改定版の(案)を見て気が付いたが、1頁の「計画改定の趣旨」の枠の中の1番目に「地球温暖化対策の推進」が、23頁の基本理念「環境への負荷が少ない循環型社会の構築」で「地球温暖化防止のための二酸化炭素の発生を抑制する」が一番はじめに挙がっている。京都議定書で温暖化が話題になっているのは理解できるが、これが1番ではなく、一番先に来るのはごみ処理についてで資源は有限で将来的に資源を食いつぶしてしまうということではないか。資源の枯渇が1番の問題であると思う。なぜ、地球温暖化対策の推進が1番なのか、地球温暖化対策は、CO₂とかメタンとかガスが地球全体を覆ってしまつて熱が逃げない話になり、ごみ処理場はあくまで燃やしたガスだけで、CO₂等は産業で発生するガスより少ないと思う、もちろん減らすに越したことはないが、その点が疑問と感じた。

事務局 質問の計画の中身をどう反映するかだと思う。市ではISO14001に基づきグリーン購入が進んで、ほぼ100%行っているので、1-3の意見のように強制的にというのはどうかと思う。また、地球温暖化と循環型社会、資源再生の問題をどちらかを優先にするかについて色々な議論があるが、本市の考えとして地球温暖化に対して、この5年間で京都議定書の約束は日本が果たさなければならない中、ごみの焼却では数%オーダーでCO₂への影響があり、焼却炉を減らすことは、いろんな形でCO₂の削減になる。地球温暖化対策は重要な位置を占めていると思う。資源の循環とどちらを優先にするかは、両方が必要で、今回特に社会的問題である地球温暖化の方を前に出したと理解してほしい。

会長 地球温暖化の問題は人間とか命が地球上に生存できるか、人類全体の問題として問われている問題ではないか。審議会において、そこまで考えて計画を推進していくことは絶対必要だと思う。世界レベルで温暖化問題は不可欠な大きな問題である。

委員 地球温暖化はもちろん人類の存在に係って一番重要なことは分かるが、当然のことで、一般廃棄物処理基本計画の中で一番にあげてくるのがどうですかという話だ。これを外すという意味ではなく、これが一番にあげられているから、一般廃棄物処理基本計画では、まず一番にあげるのは地球温暖化対策の推進か、一般廃棄物処理基本計画は何を狙っているのか。資源の枯渇とか最終処分場が

なくなって、ごみをどのようにするかより、その前に 1 番にあげる、2 番にあげる所がこれなのかなと疑問である。もちろん地球温暖化は大前提ではあると思うが、ここであげてくるのは 1 番ではないのではないかと。

会 長 表現の仕方の問題と思うが、大きなビジョンが有り、それを実現するための次のビジョンが有り、この資源循環問題はより具体化されたレベルで、日々の日常生活に係わってくるレベルではないかと思う。そのレベルであっても、目指すべき大きなビジョンを掲げることは大事なことはないか、そこを目指していると認識している。

委 員 1 番の方は、熱意がある考え方のヒントとしては分かるが、実現が非常に不可能な感じだ。その結果、回答が少なくなっているのではないかと。ペットボトルは行政が指導してやめましょうとか、実現不可能なことを求めているのを書いてあるかもしれないが。減らすこと、例えば 1-1 でリデュース、これは分かる。しかし、ペットボトルを減らすことは必要だが、廃止は非現実であると回答すべきではなかったのか。このあたりは配慮された返答になっていないような形になっているが、苦勞された表現だと思う。

会 長 回答についての内容に対する意見を、できたら審議会の議論の進め方としてお願いしたい。回答の内容をひとつひとつ取り上げて議論したら大変な時間がかかるので、この審議会では一般廃棄物処理基本計画の内容について具体的に修正案があれば、提案を頂き進めて行きたい。今の意見についてだが、問題を行政の方で回答する場合には、非常に慎重にされると思う。答えられる部分と答えられない部分、実現できる部分と実現できない部分、環境に関係する所で解決できない問題などさまざまあるかと思う。特にこの点については具体的にパブリックコメントの意見を尊重しながら、改定案どおり原案としたい。

委 員 パブリックコメントの 1-2 だが、消費者協会等が行うリサイクル活動への積極的な「支援」ではなく、市民が持ち寄ったリサイクル品に限っては税制など特典を与えることはできないか。消費者協会として申したいのは、クリーンセンターと一緒に事業協力はしている。しかし、金銭的な支援は受けていない。1-3 の所で、リサイクル再生利用は奉仕事業であると書いてあるが、リサイクルは奉仕事業ではないと思う。ある程度営利のことも考えて行かなくてはならない。これは一般市民から寄せられた意見だが、1 人でもこのような意見を持っておられるのが、消費者協会としては不本意な所だ。基本計画書の 36 頁の市民のリサイクル活動への支援とあるが、石鹼作りのための機械も自分たちで購

入しており、金銭的支援は受けていない。ここの表現を変えてほしい。

事務局 計画の趣旨は、今までにできなかったので、一緒にやっていけたらということで、言葉的には「協働」の方が適切な印象を持ったので、少し検討させてもらい、最終的に会長の承認をもらい、提出させてほしい。

会長 今の意見に対し、誤解のないように修正していくことでよいか。(各委員より特に意見なし。)

委員 改定版(案)の1頁の枠の中で疑問に思っているが、焼却場がかなり古くなっているの、新施設の建て替えのことが必要ではないか。以前に整備計画がかなり進んでいる話を聞いていたがこの中にまったくなく、4番目に中間処理施設の整備及び最終処分場の延命となっているが、施設を更新しないと、宝塚市は将来的にやっていけないという話があったと思うが、新施設の建て替えに関する表現を基本計画書に書かなくてもよいのか。

事務局 中間処理施設とは、いわゆる焼却処理施設も含んでいる。中間処理施設に係る記述は46頁の33番、34番に、焼却処理施設については主に33番に記載している。

会長 何か質問はありませんか、次の議題に入って行きたい。

事務局 パブリックコメントの意見提出者4番から6番に対する意見内容及び回答(案)について説明。

会長 意見提出者4、5、6番について5頁から9頁の内容について意見があれば、お願いしたい。

委員 6頁の4-2の所で伊丹市は回収した廃食油を処理して公用車の燃料に使用しているようだが、回答では「新たに発生するエネルギーコストや環境負荷などを含めて検討します」となっている。これは、やらない理由のように取れるが、他の市でも実施していることなので、積極的に対応して行くのか、コスト、環境面で難しいから止めるのか、どちらの方に考えているか。

事務局 この方は、リサイクルの検討と書いているので、回答では最近のリサイクルの状況とか環境負荷とかについて書いている。以前に伊丹市、京都市のリサイ

クルの状況も調べているが、油の質と量の問題とか、エネルギーの問題とかもあり、このあたりは宝塚市と情勢が違う。エネルギー、コストの問題、その他さまざまな問題を含め、どのようにしたら廃棄物としてリサイクルできるのか、積極的に検討していきたいが、市によって少し状況が違うと感じている。

会 長 その他ありますか。修正案としての形で特にないようなので、次の 7 の方に進めたいと思う。事務局から説明をお願いします。

事務局 パブリックコメントの意見提出者 7 番に対する意見内容及び回答（案）について説明。（7-1 の回答文中、「別途、下水事業に関する課題検討の場があることから」を下水道部署と調整した結果「別途、事業化が進められていることから」に置き直すことを委員に周知）

会 長 意見が沢山出されているが、計画の改定（案）を良く読んで精査されていると思う。特に表記の間違いなどについて意見を頂き、貴重な提案を頂いた。事務局から説明があったが、関連した意見なり新たな意見があったらよろしくお願います。

委 員 資源化率の言葉は使わないのか、使うのか。表の 1-2-7 で「G」で「資源化率」を「資源回収率」と変更するのですね、リサイクル率は「I」を「H」に変えて「資源化率」にすると、「リサイクル率」という言葉は今後使用するのですか。7-6 で定義を変えることで、過去のデータが比較できなくなるのであれば、混乱するので非常に重要だと思う。定義をしっかりと欲しい。簡単に変更した理由は何かあるのか。表で見るのにそれぞれ言葉の意味がはっきりしないと、この表の意味をなくすと思うので、充分気を付けてほしい。

事務局 指摘を頂いた内容だが、今回は前回の計画と変えない方向で修正して行きたい。もともと国の統計、都市の統計とか色々な言葉が使われており、定まっていないのが現状である。前回まで統一していた、従来の言葉を使った方が馴染みがあるのではないかと思う。

会 長 「資源化率」の言葉自体が全国的に統一されていない。しかし、これまで宝塚市が使って来た基本計画の中で使われてきた言葉に合わせているということで、理解頂けると思う。他には、いかがでしょうか。

委 員 改定版 10 頁、11 頁の表のでき上がりを見ると、この表だと下に行くほどごみ

を出していないということだと思うが、宝塚市が頑張っているのだから表の上の方に来るように、順序を逆にした方がいいのではないか。また、17頁の表1-2-6、1-2-7の一番最後に13年度と18年度の対応表があって右の枠の数値に表示を入れることをお願いしたと思うが、趣旨を理解頂けたのか。

会長 具体的にどのようにすれば良いのか提案を頂けるか。

委員 減った場合は、数値の前に三角を入れる。

会長 増えた場合にはどうするのか。

委員 例えば数値の前にプラスを付けて表現する方が分かりやすいのではないか。

事務局 10、11頁の表を少ない方から並び替えてはどうかという提案と、17頁の表についてプラスマイナスの表記にすればとの意見であれば、どちらも可能である。ただし、プラスマイナスの評価については、資源化率が増えれば資源化が進んだのは良いことだが、全体のごみ量削減という点ではどうなのか。2つの側面がある。なお、表を変えた場合、17頁の上段では資源化率の増減について倍数を使っており、表の数字と合わなくなるので、このことも含めてご意見を頂きたい。

委員 この表の最後で13年度に比べ18年度の比を出している意図は、5年程前に比べて18年度がどの様になったかを明確にするためという事ですね。ここで強調したいのか、それとも客観的なデータとして挙げているだけで、特に強調する意図はないと思う。先ほどいわれた1以上であれば良いのか、悪いのか、問題になるのであればやめたほうが良いと思う、この値のデータだけでも良い。その辺の意図がわからないので、その辺で決まると思うが。

事務局 平成13年度の数値を基本として、現行の計画を決め、現在、中間段階の18年度まで続いている。基準の時の年と、今の中間段階を比較する上でどちらが見やすいのか判断して頂ければいいかと思う。

会長 個人的な意見だが、一応基準年から今日を出す場合に、このような出し方をしている。資源化率で資源化量を考えると、数値が多い方が資源化が沢山できたとなる。その判断は見る方に任せて、データとして提供する意味において、今回はこれでお願いできたらと思う。

委員 上に表の説明が記載されており、これに対応するので、たぶん読む方は、表から見るのではなく、文書を読んで表を確認すると思うが、数値が対応するので良く、特に難しい内容ではないと思う。

会長 これで良いと思うが、どうか。(各委員より特に意見なし。)
他にありますか。

事務局 11 頁の表についてもこのままでよいか。委員さんから変えた方がいいという意見があったと思うが。

会長 これも多い方がどうかという事で、下の方が頑張っているということで。今まで違和感がなかったが、特にこれはやっぱり変えたほうがいいという意見が多ければそういう方向もあり得るが。混乱が起きないということで、むしろ下の方が、頑張っている認識はこの表で把握できるので、特に異論がなければ、よろしいか。

委員 これも表の見方の問題だ、神戸市が一番にあるがそれ以降は、上下をした形で変わってくるので、例えば西宮市が 1,250 g から次にどこかを探す時に、すべてを見なければ分からない、他の市はどのように動いているか、宝塚市はどのように動いているのか、頑張っているとか、頑張っていないとかが判りやすいと思う。

会長 市ごとに比較する場合に、最初の変更前の表記の方が比較の検証がしやすいということだが、ここは表記の解釈が分かれるところだと思う。

委員 この表で、われわれを含めて一般市民の人が何を見たいかという話になると、一般の人が見たいのは宝塚市の位置付で、例えば兵庫県の中でどれくらいのところにいるのかがメインだと思う。宝塚市と西宮市がどうだったか、伊丹市と川西市がどうだったか、少ない方から、多い方から並べても違和感がないのだが、順番に多い方から並べた方が、また郡部と都市部に分けて、比較しないと今度また比較できなくなると思う。それは色々あるので思ひ方により違う。

委員 学術的な本とかを見慣れている方と見慣れていない方とかが見て、見慣れていない方のためにも、親切に見える方が良いと思う。

会 長 事務局からお願いします。

事務局 この表については、もともと事務局の方では、市を固定して並べていたが、委員のみなさんの意見で、やはり多い順のほうが分かりやすいと指摘を頂き、この様にした。もちろん少ない方からでも、多い方からでも、それはかまわないが、流動的なものではなく、審議会の意見を経て代わったもので、それを踏まえて意見を頂きたい。

会 長 並べ方の意見が出ているが、どのように並べてもメリット、デメリットが出てくる。一般の方においてはこの比較は分かりやすいと思う。この表記でいきたいと思う。よろしいか。(各委員より特に意見なし。)

委 員 先ほど7番の意見にあったが、30頁で目標が図示化されて分かりやすい、30頁と29頁ですか、対応していると思うが、その対応の表現が少し微妙で、例えば家庭系ごみ、事業系ごみ15%と削減が書かれ、19頁の文書の中には15%「程度」と書いてあり、括弧2のリサイクルの目標では40%「以上」の表現があるが、本文では40%を目標に取り組むと書いてあり、30頁の図は43.5という数字が明記されている、それから29頁の括弧3に記載のように「30%減量」するのであれば、30頁の所にも「30%減」と書いてある方が対応関係ははっきりするのではないか。先ほど240.1gの数字の修正があると言われたので、一個一個対応を見ていたら微妙に表現が違うので、それをしたらどうかなのかと思った。

会 長 細かな表記の問題になろうかと思うが。事務局からお願いします。

事務局 例えば資源化率について40%「以上」と書いているが、これはすべてばらばらの数字ではなく、すべて関連している。資源化を高め、燃やすごみを減量したとき、総ごみ量はどう変化するのか。目標をもとに試算している。資源化率が40%以上といいながら実際には43.5%と試算しているが、もともと29頁に基づいて試算しているので、43.5%を余りこだわらなくても思っている。今の表記の方が混乱しないのではないかと思う。

会 長 例えば、29頁の括弧2のリサイクルに関する目標の資源化目標、資源化率25%以上とある。これは、目標年次には本文の3行目ですが、40%を目標に取り組み実施する。30頁には43.5%になっている訳だが、40%「以上」を目標に取り組むということであれば、「以上」という言葉を入れた方がよいが。後の数字から見ても「以上」という言葉を入れた方がよいのではないかと思う。普通、四

角で括るゴシックで表記する場合には、「以上」とか「程度」はあまり入れない。むしろ数値をはっきりと表記する方が見る方としても、とてもインパクトが強くインパクトが強いと感じるが、その表記については、検討させて頂く。特に、今の所だと40%という所は40%「以上」の方がいいのかと。表記の問題なので、検討させて頂くことでよいか。他には、ないでしょうか。

委員 37頁の7-11だが、スリム・リサイクル宣言の店の質問内容の最後だが、今から7、8年前にスリム・リサイクル宣言の店を推薦してほしいという依頼があり、その当時は、宝塚にはスリム・リサイクル宣言の店が5件ぐらいしかなかったのが、市内の事業者には色々聞いて100店舗ほどに増やした。その間にずっと増やして行ったのだが、増やして行った中で優良店については表彰を行うということで、県の方から依頼があったと思う。そこで市から何店舗か推薦して欲しいということでスリム・リサイクル宣言の店を4、5年間、推薦して、表彰を受けた店もあったと思うが、その後、急になくなったので、どうなっているのかなと思っていた。ただ、ステッカーとかポスターとかは、店に貼ってもらっているのが、その後2、3年消えた状態になっており、どのようになっているのか。

会長 事務局からお願いします。

事務局 スリム・リサイクル宣言の店は、実際には県で5R会議という推進協議会を立てており、こちらで主に表彰制度を行っていた。数年である程度表彰してきたわけだが、一定レベルまで来たことになったので一度打ち切りとなっている。再度、県において、新たな制度を検討しているが、具体的な内容はまだ決まっていない。今後またできれば、業者の方がむしろ頑張っているのだから、市民にも周知を図って行きたい。現在、県の方でルール化の検討中で、了承頂きたい。

会長 また、今後出てくるかと思えます。他には、はいどうぞ。

委員 先ほど29頁で会長が指摘した、リサイクルに関する目標だが、私も「以上」は気になっていた。わざわざ括弧に括っているのに「以上」はおかしいと感じる。何故「以上」にしているかと推測すると、どうも調布市が43.6%、小金井市が39.6%で、40に設定すると小金井市だけを目指したことになるし、43.6%であればちょっと目標が高すぎる、それで40以上であれば両方が目標になっていることになるのかと推測するが、40%でおかしくないと思うが、40%の方が数字的にもきれいで、一般の人が見た場合でもこれが43点何%というよりも、

はるかに見やすいのではないか。他を見ても、家庭のごみも 15%の削減ときれいな数字になっているので、ここは、やはりリサイクルに関する目標としては 40%で良いのではないか。「以上」は外した方がいいと思う。それと、過大包装を排除する市民運動が過去に有った。私もこれで動いているが、最近全然聞かなくなったが運動はなくなったのか。

事務局 「以上」の件だが、ごみの削減は何パーセント削減されたかだ。リサイクルについては、集団回収も含めて何パーセント「以上」の言葉を使っている。「以上」が多いのではないかという意見であれば、それはそれで良い形にはと考える。

委員 リサイクル運動は行政と生産、販売、消費者が一緒になってやっていかないとできない問題であるが、何処に行っても行政の責任であると言われている。本当は生産者、販売、消費者そして行政が入って皆で協力してやって行かなければいけない。わたしたち消費者運動の中で考えていることは、過大包装、過剰包装はスーパーで売っている商品の中から何種類か調べて、これは過大包装ですよ、これは正当な包装ですよと分けて行い、スーパーにも協力してもらって消費者が利用するかどうか調べてみようと考えている、どこが責任とかではなく、皆が責任を持たなければいけないと思い運動を続けている。

事務局 市民運動の考え方については、平成 13 年度からまちづくり条例を制定していた時に協働のまちづくりの考え方を、あらゆる分野で打ち立てて行う取り組みを決めている。この考え方の基本は、市民と行政が対等なパートナーであることを前提に進めている。そこでは行政が仕掛けて市民運動を起こさせ、何かを変えていくのではなく、市民が主体的にひとつの運動を起こして、過剰包装を廃止しようと、もしそのムーブメントが起これば市は何ができるかと、どこで連携できるかと、その時代に来ているのではないか。委員から話があったが、消費者行政にしても市民が主体的に考えて、それを行政がパートナーシップを持って協力して行くスタイルに変わっている。本来計画もそういう主体なのではと考えている。

会長 2 番目の「以上」の表記の件だが、下の方を見ると説明のところでは、やはり先進市とはいいがたい。それよりも「以上」の所が結構あるので、ここは 40%「以上」で未来への意思を表記することで良いのではないか。それから過剰包装運動に勢いを付ける意味であったのではないか。

委員 目標の何パーセントは、例えば 15%とか 40%とか決めると 40 とか 15 ぴったりを目標にしませんか。40 であれば基本的に 40 を超えようとするのが目標だと思う。「以上」は後から来たとしか思えない。15%削減が有るが 15 を超えてはいけないとは思わない。絶対 15%と削減となれば、最低 15 であって 20 を狙う。当然 15%「以上」にしないとだめなのでは、今までの内容からすると、この「以上」は妥当だと言えないと思うが。

会長 目標の捉え方で、かなり高いハードルのレベルで目標を設定しているか、或いは、かなり超える確率があるかといえ、それ以上できる見通しであると思う。

委員 何パーセントとかいっているが、こういう運動だから、50%になったからやめようじゃなくて、60 になっても、70 になっても市民がしっかりした活動となるのですから、それは、あまり関わらなくても「以上」であって、皆で努力していけば良いのではないかと。

会長 色々あるかとは思いますが、この場での総意としては、表記にはとらわれない意見であったと思う。特に問題がなければ一応この表記でと思うが、それでよいか。(各委員より特に意見なし。)

それ以外に何かあれば、特になければ一応このパブリックコメントの改定についての検討を終了させて頂く。若干修正点が出てきたが修正したものは、後日でよいか。事務局もそれでよいか。

委員 パブリックコメントの 7 頁の 4 - 7 の回答だが、下から 2 行目の高齢化社会は高齢化か、高齢者か。

事務局 正しくは高齢社会で「者」はいらぬ。一般的には、7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会といい、これは世界的に呼び名として統一されていて、高齢社会が正解である。

会長 他はよろしいか。特になければ、以上で、パブリックコメントへの回答についての審議を終了したい。今日の会議を持ち、審議会としての最終の結論となる。それを踏まえ市へ答申をしていきたい。この基本計画を修正したうえで、最終の基本計画の改定版とするので、よろしくお願ひしたい。なお、この内容について、今後、軽微な修正、気づかなかった部分でのささいな修正等あるかも知れないが、その場合には、会長の責任において修正したうえで、最終的な

答申（案）としたい。了承の程お願いする。それでは事務局から、今後の予定について説明があればお願いしたい。

事務局 今後の予定については、回答を修正し、今回の審議どおりに修正ができたか会長に確認してもらったうえで、会長から来週の 22 日金曜日に市長へ答申して頂きたいと考えている。審議会からの答申を受けた後には、この計画の手続き等を速やかに行い、この 3 月末にはごみの減量、資源化の分け方のパンフレットの中に概要版として 4 頁程度を盛り込ませて頂き、この改定について周知を図っていききたい。以上です。

会 長 本日予定していた議案はすべて終了した。皆さまの協力により無事終了することができた。当審議について 22 日金曜日に代表して市長に答申する。昨年の 6 月から数回に渡り貴重な意見等を頂いたことに対し感謝申し上げる。また、こういう形でまとめる事ができたことに重ねて感謝申し上げたい。長時間に渡り審議頂きありがとうございました。

（午後 4 時 30 分 閉会）